II部学生としての存在から
学費値上げ白紙撤回
II部改革粉砕の闘い

全ての II部学生諸君、教職員の皆さん！

とりわけ昼夜にわたり資本の管理支配をうけている勤労学生の諸君！

「学費値上げ」を巡る教育－学園闘争は、なかでもII部に通学する私達にとって大きな問題点を与えました。それは単に「II部改廃」という私達の存在をおびやかすことのみならず、「勤労者教育」という問題であり、又「II部制をもつ大学」の抱える大きな矛盾点であったと思います。あの66年大学立法を頂点とした、教育の再編がこの明大に於いても中教審路線の具体化として表出してきたことです。例えば、「大学改革委員会」「対策委員会」「経営改革委員会」等々が、理事会の専門スタッフとしてその機能を果たし、今や「明大百周年事業」と相見合って「明大の機構を近代的に変革する」－激変する社会にそわしていく為そのものであると思います。

昨年、当局・教授会との団交の中に於いて当局自ら言った「社会に要請された大学・教育」…この言葉を私達はは っきりかみしめねばなりません。それは「教育－大学」が現社会に於いてどのような役割をもつのかということです。即ち「現社会が、どういう社会であり、誰の利害を追求する社会なのか？」ということです。それは当然にも、歴史的にも、「教育」は時の支配者の体制の補完物の要因となり、現代社会に於いては、高度に細分化された分業化された専門知識－技術を身につけんとする人間の養成にしかすぎません。私達がたとえ向学心に燃えようと、知識・技術を得ようとも、それがどのような社会に利用されるのかが問題なのです。又、小から大学へと進む中、「知能の高い者、健康的にいい者、金銭的な問題」等というふるいにかけられてきました。私達大学に来る者は、ある意味では管理支配等をうける人間であるが、しかもう一方では、「選ばれし人間」であるし、「将来的には管理職等」の人間になるというなく、「II部教育」の問題が、職場内に於ける教育制度の改変と相見まわって登場していることである。即ち、勤労者教育－II部制度は資本家の要望としてあることである。例えば職場内研修制度－職能給の導入による「なりの充実」と、逆にこれは大資本下の職場にしかできないことであり、中小企業の人間には一切ありえないという問題でもあるように差別そのものを温存していることである。又集団就職の多い職能関係など多多い処方では同一職種による出資風を出し、法人学校の設立等あ、てそれは企業の交替勤務にそって授業もそれにあわせてあるということである。

II部に通学する人間で一番多いのは公務員関係の諸君であるが、これらの職場に於いても学歴給と相見まわって職務給の配置による序列と同時に給与体系のランクなどが、でいくとおくことである。私達は確かに現実の自己の利害に密着した考えで通学している。又自分の知的欲求の中から出てきた学問なりを享受しようとしている。しかし先にも述べたように私達の意志に好むと好まざるにかかわらず、現実的に資本は中高級労働者を欲しているのだ。私達は現実的利害に左右されない「教育」「社会」を追求せねばならない。

現在明大II部に通学している人間の内、定職もっているのが約40%（但し一年次、二年三年と進むにつれ、そのパーセンテージは増える。なお職種は公務員が半分以上）、アルバイト、パートなどの臨時工が40%以上と勤めているのが圧倒的に多い。II部通学の理由は当局の言うように「I部失敗」ではなく「経済的理由」である。昨今の高物価の現象の中に於いては、働かなければ満足な勉学が続けられないということであり、これは昼間部在学者の中にも働いている諸君が圧倒的に多いという事実でもわかると思う。昨年6月27日「大学当局との団交席上、教務部長西垣（当時）が「II部の学生には落伍者が多い」というII部学生－勤労学生に対する差別発言があったが、この事は事象面のみをとらえ、その社会的背景を一切考慮にいれていないというものであった。今回の二倍にも及ぶ大幅な値上げにより、授業料すら満足に払えないということである。月々の給料では、生活するのがやっとであり、教育費の念出は夏冬の一時金で払えるというのである。生活（勉学）を続けていくの苦しさは、高物価、インフレが原因であり資本家どものあくなき利潤追求が根因である。資本の矛盾は常に労働者階級へと転化される。学費の値上げもこの論理である。

私達は学費闘争を経る中からこのような問題点を主要なものとして把握した。私達勤労学生は生活の実体験としてこのことを痛感しているし、そうであるが故に「働く学ぶ」意味も、値上げ反対「改廃反対」を叫ぶ中から社会総体の問題としてとらえていったのである。職場に於ける合理化の嵐は我々を人間とも思わない資本の攻撃であるし、大学当局もしかりである。

私達は、学生生活を送る中に於いてもII部学生という不当な差別をうけている。恒常的なロックアウト体制、学館閉鎖、大学院診療所等それである。私達は一つ一つ、これらの問題を、第一に、クラス・サークルの仲間のみならず、職場の仲間と共に共通の問題として討論していこうではありませんか。

クラス・サークル・ゼミの仲間と共に、討論を開始し、あくまでも値上げ白紙撤回「II部改廃粉砕」の決議を克ちとろうではありませんか！

昨年よりロックアウトを強行し、国家権力と一体になり私達学生を弾圧している小粕総長・学長、加藤理事長を、団交の場に引きずり出そうではありませんか。クラスに於いて各教授会、学長－理事長団交要求の決議を克ち取ろうではありませんか！

「11・19闘争」公判闘争を「被告」と共に厳い抜く戦線を克ち取ろうではありませんか。

私達II部学生－勤労学生は、職場に於ける矛盾、問題をクラスの仲間と共に討論しようではありませんか。また職場へと還流しようではありませんか！！

'73 6月

II部明大共闘

連絡先：本館1階 記念館下 政文研部室